



清潔性と安全性が徹底されている  
生産ライン

独自で開発したディスポーザブル鍼灸針

セイリン株式会社

## 日産100万本。使い捨て鍼灸針の先駆

しんきゅう

使い捨て鍼灸針の先駆企業である。  
滅菌した針を1回使っただけで捨てる。病  
気の感染を防ぐには欠かせない。注射針  
については、早くからディスポーザブル(1  
回使用)化が進んでいた。しかし、鍼灸針  
は、同社が製造を始めた1980年当時、ま  
だ使い捨てへの理解はほとんどなかった。

鍼灸針事業を始めたきっかけは、初代  
社長(現会長)鈴木毅氏のある出会いだ  
った。通夜で会った親せきの男性が、鍼  
灸師に転職していて、治療しやすい品質  
のいい針をつくるってほしいと鈴木氏に持  
ちかけた。

気軽に引き受けた鈴木氏だったが、治  
療現場の実態を見て驚いた。1本の針を  
何度も使う。針を刺したときの痛みを和ら  
げる針管の内面には、患者の肌の脂や  
血液が付着している。時代遅れを感じて、

最初から使い捨てを前提にした製品を目  
指した。針管の中に入れた針をプラスチ  
ック製の小さなくさびで固定して、使うと  
針管から外れ、使用済みと区別できるよう  
工夫した。1回使用鍼灸針として医療用  
具製造承認を国から得て量産化した。

しかし鍼灸治療の知識もなく、販売ル  
ートも見当がつかなかった。鍼灸学会に  
参加してPRしたが販売は伸びず、個人  
の資産を処分して赤字を補填しなくては  
ならないという事態にも直面した。

鍼灸治療界は想像以上に保守的だ  
った。料理人が包丁を大切にするように、  
1本の針を手放さない鍼灸師もいた。「こ  
の針でないとダメ。味があるんだよ」と、  
言われて鈴木氏は驚いた。一方で使命  
感もわいてきた。ものづくり、品質の均  
一性では自信があった。

事態が突然変わった。発端は80年代  
中ごろからのエイズ報道だった。注文が  
急増。海外向け受注も拡大した。国か  
ら増産態勢をとるよう要請され、従業員  
を募集、機械も増設した。以来右肩上  
がりの十数年が続き、最新鋭の工場を  
完成させた。当初「せめて月産100万本  
にしたい」が、現在は日産100万本を超  
えた。

いまや鍼灸針は使い捨てでなければ  
売れない時代だ。そんな中でも、先駆メー  
カーラしさが製品に反映されている。  
たとえば針と針管を固定する超音波接着。  
プラスチック製の小さなくさび方式から  
変えた独自の手法で、一度使用したら  
元にもどらない。現社長の田中正宏氏は、  
社員に鍼灸師を採用して、高度な鍼灸  
医療への貢献を目指している。



鈴木 毅 会長

取扱製品 鍼灸針を中心とした医療機器の開発・製造・販売  
資本金 4000万円  
従業員数 97人  
所在地 静岡市清水区袖師町  
電話 054(65)5322

新製品の開発にも力を入れている



# 企業



木工床用のプレカットマシン。今にも動き出すロボットのようだ



プレカット加工された各種継ぎ手

株式会社平安コー ポレーション

## 木造住宅部材の生産を完全機械化

「木造住宅の建設現場で、大工さんの仕事が、ガラリと変わりました。持っている道具で、それが分かります」。プレカット工法の組み立て現場の写真をスクリーンに映しながら、同社の技術担当者が説明してくれた。

プレカット工法は、木造住宅の部材を工場ですべて加工、現場では組み立てるだけ。鉄骨を工場で加工して現場で組み立てる従来のプレハブ工法をそっくり木造住宅でも実現させた。木造住宅では職人の熟練技術が求められ、材質も幅広いことから部材加工の機械化は困難とされてきた。同社は木工機械づくり60年余りの技術の蓄積を生かして完全機械化を実現した。それが同社の主力製品プレカットマシンだ。

プレカット工場では、加工機に部材を

セットすると、幅や高さ、長さをレーザー光などを使って自動測定。それを元に加工に必要なCAD(コンピューター支援設計)データを自動選択して、自動加工していくという仕組み。柱や梁の切断から各種継ぎ手など100種類近い加工パターンに対応している。ラインを通して住宅1棟に必要な部材が出来上がり、標準的な生産ラインで1日1棟(132平方メートル)分の部材を生産できる。

プレカットマシンの登場で、木造住宅建設の工期短縮やコストダウンはもちろん、現場の安全性も大きく向上した。いまや在来工法による木造住宅のうち9割近くにプレカット部材が使われているという。鈴木通友社長は「日本の木造住宅の品質向上や大工さんの作業の省力化にも貢献できている」と自負する。

平安鉄工として1939(昭和14)年に創業。手動の木工機械からのスタートで、建具用を手始めにピアノなどの部材用手掛けた。コンピューター制御は、プレハブ住宅の内装材や家具用の機械づくりから本格化した。メカトロニクスの発展で、加工の対象が飛躍的に拡大。木質系のテーブルやいす、ドアといった木材だけでなく、航空機の床材、オートバイのカウリング(風防)、新幹線の車両など、多様な素材の加工に対応。国内だけでなく世界70カ国以上に輸出している。

「木工機械の平安 という基盤はしっかりと守りつつ、新分野の機械づくりにも力を入れ、わが国の製造業の応援をしていきたい」。鈴木社長は固い意志を見せつけた。



取扱製品 木工機械、産業用機械、刃物機械  
資本金 1億7154万円  
従業員数 160人  
所在地 浜松市三島町(浜松市都田町の都田システム研究所に本社機能)  
電話 053(441)3311

顧客の要望に合わせた改良や開発が続いている

